

石仏散歩

No.95

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子) 2016年3月20日 発行
 事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941
 ホームページ <http://niigata-sekibutu.vox.jp>

石仏散歩

長谷の大地蔵

柏崎市 渡邊 三四一

佐渡畑野町の長谷寺(真言宗)は、牡丹の寺で知られる。その境内中ほどに「長谷の大地蔵」と呼ばれる異形の地蔵石仏が建っている。

全体の高さ二四五cm、像高は一八五cm、右手に錫杖、左手に宝珠の延命地蔵である。昭和五十三年、雑誌「太陽」に平山郁夫画伯が描いた本地蔵のスケッチが掲載され、広く知られるようになった。

その一点を凝視する鋭い眼差し、三角鼻、一文字に結んだ口元から、つい諏訪の「万治の石仏」を想起してしまう。宮嶋潤子氏『謎の石仏』によれば、木食弾誓上人の五十回忌の折に、その弟子二人が彫像した阿弥陀如来像であるという。

実はこの地蔵石仏も、佐渡では木喰上人の作とする説が有力である。木食弾誓上人は近世初頭に来島し、弟子とともに浄土



教に基づく地蔵信仰を根づかせていった。弾誓らが去った後も、後継の浄土系の木食行者らが活躍し、佐渡の地蔵信仰を盤石なものにしていった。もちろん作者が誰かは不明だが、こうした作仏聖によって、この独特の風貌の地蔵石仏は作られた可能性が高い。

解説板には、一生に一度に限り「願かけ」ができるとの伝えで名高く島内外に信者も多い、とある。その足元にも、また隣の地蔵堂にも、夥しい数の小さな身代り地蔵が奉納される。

佐渡における地蔵信仰普及の基礎には、社会的弱者に寄り添う木食行者らの活動が窺えるのである。

新潟地区春の石仏探訪会実施報告

三國街道中通り

—新発田編—

新潟市 大木 禊 爾

五月二二日(金)一〇時新発田市カルチャーセンター出発。石仏神社に中世阿弥陀佛七基、いわゆる出湯系です。天明年間に聖籠観音の講中の七兵衛という人が当地内に安置したそうです。相円寺に越後の生き仏と称された泰道泉明建立の宝篋印塔があります。今まで四三基認されていますが、その第一番です。宝光寺は新発田藩主の菩提寺で、歴代藩主、夫人その他一族の墓は笠塔婆と宝篋印塔がほとんどです。なかでも二代の宣勝塔は相輪・笠・蓮座に特異な型式をとり、午後は安楽寺住職佐藤栄征師に案内をいただきました。安楽寺は五十公野城が上杉景勝に攻め滅ぼされたとき、城主道如齊夫妻がここで自刃して果てたといわれています。門前に、阿弥陀仏・板碑・線刻五輪塔など中世石仏群が安置されています(写真1)。五十公野城にのぼって昔の栄華をしのびました。龍昌寺の中世阿弥陀仏十八基(写真2)。この辺はどこへ行ってもこの阿弥陀様がいらっしや



写真1 安楽寺



写真2 龍昌寺

います。天照皇大神宮は、青面金剛童子・板碑・休み石などが集められており、なかでも円形線刻板碑が目をひきました。磨減で判読困難ですが、なにやら真言が刻まれているようです(写真3)。佐藤栄征氏に解読してもらいましたら、右が不動菩薩、中央が地藏菩薩、左が毘沙門天だそうです。上下がわずかにわかる程度で、中央部がまったく判読不能で



写真3 円形線刻板碑



写真4 道標

あるということ、信者がなんべんもさすったか、たいたかしてこうなったのではないのでしょうか。ご存知の方教えてください。諏訪町の蛇塚屋の前に明治五年に建てられた道標があります。「右三國通水原新津三条長岡道 左奥州通東京道」とあって、この地は三國街道と会津街道の分岐点でした。民家のブロック塀に組み込まれていて他の面は見えませんでした(写真4)。

午後四時帰着 参加十六名、天気晴朗。

新潟地区秋の石仏探訪会実施報告

三國街道中通り

—新発田北部編—

新潟市 星 喜久男

探訪地は次のとおり。下岡田大日堂、
鳥島龍泉寺、下中常勝寺、住田、西浦神
社、境、貝塚八幡宮、金山公民館、貝屋
宝蔵寺、大桜峠。

十月十五日、十一名の参加を得、特別
バスの利用ということで快適な探訪がで
きました。「歴史の道調査会報告書」に
収録されている庚申塔、湯殿山塔、金毘
羅塔、地藏尊、中世仏、板碑など順次見
て回りました。そのなかで私なりに興味
をひかれた三か所について報告したいと
思います。

源頼朝の供養塔

下岡田法音寺大日堂の左手に大きな五
輪塔があり、その前に据えられた小さな
自然石の中央に「源頼朝公塔」、左右に
振り分けて「当山寄意佐々木三郎盛綱謹
建之」と刻んでありました(写真1)。
また五輪塔周囲には板碑、小五輪塔、中
世仏など多数配置されていました。

なぜ鎌倉にある頼朝の墓碑より立派な

供養塔がこの地にあるのか不思議でした
が、佐々木盛綱がこの地の地頭に任ぜら
れていたことを知り、納得できました。
頼朝決起時からの武将で平家物語にも登
場する有名人であった盛綱、その子孫が
後に加地姓を名乗り、さらに新発田、竹
俣とわかれ、鎌倉、室町から戦国時代を
生き延びていった印がここに集められて
いるようで興味深いものでした。



写真1 頼朝公塔

住田、櫻橋の三重相塔

通称は「鬼の墓」「青鬼(あおき)さ
ま」、伝説では平安末期、青鬼間道とい
うものが住田の裏山に城を構え、横暴の
かぎりを尽くしていたのを源義綱に討た
れ、その首を埋めたところと伝えられて
いるとのこと。が、この地を支配して
いた豪族でこの墓も里人によって建て
られたという説もあるそうです。実物は

写真で見えていたものより大きくて堅固で
立派なものでした。高さ180cm。小野
田さんは塔の構造の時代相から見て「鎌
倉時代後期前半位まで遡れるものではあ
る。」と述べておられます。(写真2)



写真2 鬼の墓

下中 常勝寺准堤観音

二大竜王に支えられた三目十八臂のお
姿は地上3・45メートルの高さと相まっ
つて瞠目すべきものでした。造立者は三日
市藩代官赤松藤太郎と伝えられています。
(写真3)



写真3 准堤観音

事務局だより



◇上越地区見学会のご案内

期日 4月29日(祝)

テーマ 北国街道の石仏・文化財を巡る

集合 ①直江津駅南口 9時30分

②R18道の駅あらい 10時

見学地 旧関川関所・新井宿

解散 ①R18道の駅あらい 15時30分

②J.R直江津駅南口 16時

定員 28名

参加費 2500円(資料代・バス代他)

申込み 上越地区事務局やまだ漫歩まで

電話 090・4621・4149

E-MAIL: manpo1970@docomo.co.jp

※できるだけEメールでお願いします。

※昼食は道の駅で自由食となります。

※別紙チラシもご覧ください。

◇新潟・下越地区見学会のご案内

日時 5月24日(火) 10時～16時

テーマ 三國街道中通りを歩く―中条編

集合 胎内市役所 駐車場

中条駅着9時42分着あり(新潟

発8時59分)迎えに出ます。

探訪地 長橋石造遺物群、七所神社板碑

群、江上館、大輪寺石造遺物群、

野中板碑群、その他詳細検討中

参加費 3500円(バス代、資料代、

昼食代、保険料等含む)

定員 20名

申込み 新潟地区事務局 大木禊爾

電話 0256・72・6913

携帯 090・1157・5936

◇平成28年度総会のご案内(予報)

日時 5月8日(日) 13時～16時30分

会場 まちなかキャンパス長岡3001

長岡市大手通2-6(長岡駅よ

り徒歩5分)

第一部 公開講演会(13時～14時30分)

演題「越後の妖怪―特に弥三郎

婆を中心に―(仮)

講師 高橋郁子氏(新潟県民俗

学会常任理事・新潟妖怪研究所

長)

第二部

総会 平成27年度事業報告・決算報告

会則改正について

平成28年度事業計画・予算(案)

その他

第三部

情報交換

懇親会 17時～

※詳細は後日往復はがきにてご

案内し、出欠等を確認します。

◇県博で企画展「おふだにねがいを
―呪符―」を開催します

新潟県立歴史博物館(長岡市)では、この春「呪符」の展覧会を開催します。さまざまな呪符を通して人々の祈りやまじないのあり方を、歴史学・考古学・民俗学など様々な視点から明らかにしていくとのこと。日本人の精神史を読み解くうえで参考になります。会期は4月23日(土)～6月5日(日)、月曜休館。



◇会費納入のお願い

平成27年度会費未納の方に振込用紙を同封しました。至急お振込願います。

編集後記



新潟地区では三國街道中通りを探訪しています。難しい刻字をにらめっこしているとだんだんわかってくることがあります。大勢で首をひねってみるのもまた楽しいことです。是非おいでください。(新潟地区/大木禊爾)